

## 第2章 主な浸水被害

本市では、過去に多くの浸水被害が発生しました。特に、東海豪雨では、床上床下合わせて家屋浸水 815 世帯もの甚大な浸水被害をもたらしました。

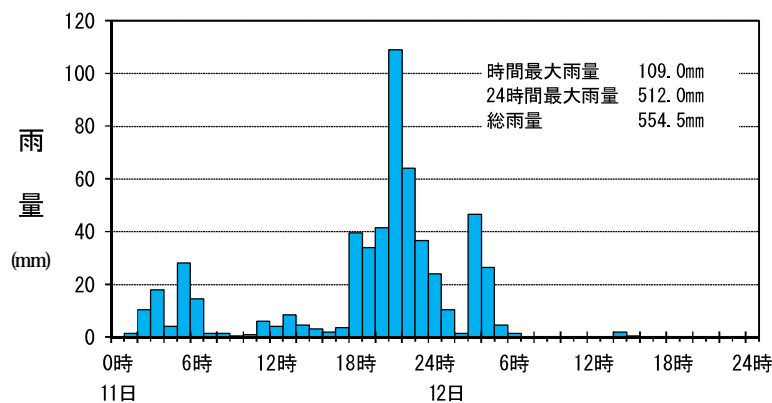
### 2.1 平成12年9月豪雨（東海豪雨）

平成12年9月に発生した台風14号の北上に伴い、活発化した秋雨前線の影響で、東海地方は局地的な大雨に見舞われました。刈谷消防署（寿町）では、11日21時から22時にかけて、時間最大雨量109.0mmを記録し、2日間の総雨量は554.5mmに達しました（■1.2.1参照）。

この記録的な降雨により、本市の周辺に位置する境川や逢妻川の水位は計画高水位<sup>8)</sup>を超過し、堤防の決壊のおそれがある状態が10時間以上も続きました。また、本川の水位が上昇したことにより、市内の支川で排水が困難となり、多くの箇所で氾濫が生じました。

河川の氾濫は、濁流となって低地の多くの民家や事業所を襲い、床上床下あわせて家屋浸水815世帯・事業所浸水258件という甚大な被害を受けました。さらには、鉄道や幹線道路のいたるところで冠水し通行止めとなったことから、サプライチェーン<sup>9)</sup>が寸断され、本市の社会経済活動に大きな影響を与えました。

■1.2.1 東海豪雨時の降雨状況（刈谷消防署（寿町））



東海豪雨による被害状況（野田町）



東海豪雨による浸水状況（今川町）

#### <用語説明>

- 8) 計画高水位：計画した流量（計画高水流量）を安全に流下させるのに必要な河川の水位のこと。
- 9) サプライチェーン：原料の段階から製品やサービスが消費者の手に届くまでの全プロセスの繋が<sup>つな</sup>り。

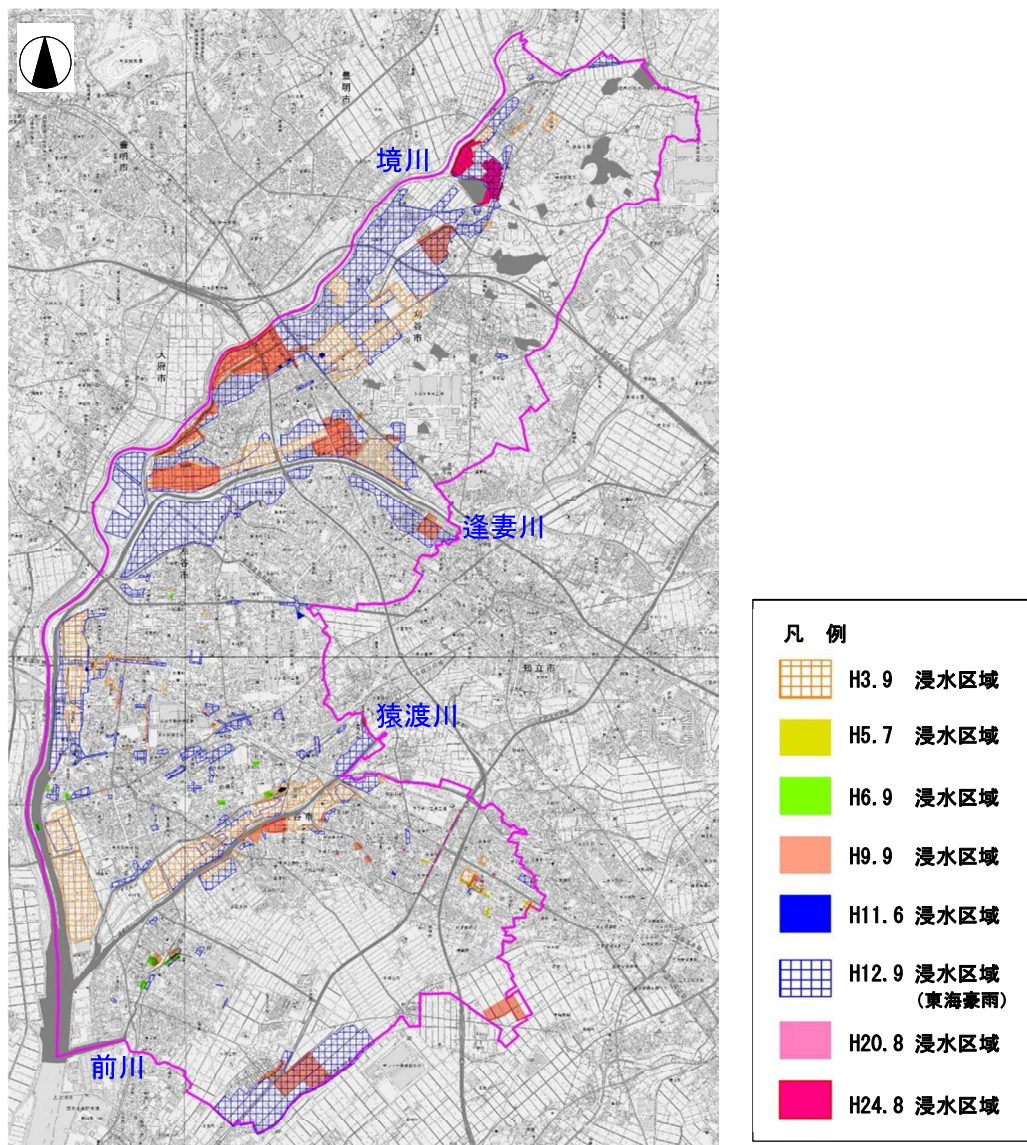
## 2.2 過去の主要な洪水の浸水実績

本市は、過去において幾度となく浸水被害に見舞われてきました。過去の主要な洪水では、二級河川の川沿いで広く浸水しています（■1.2.2参照）。

平成3年9月豪雨では、平成12年9月の東海豪雨のように降雨の継続時間が長く、かつ雨量が多かったことから、市街地や農地等で浸水被害が発生しています。

その後も、全国的に局地的集中豪雨（以下、「ゲリラ豪雨<sup>10)</sup>」という。）による浸水被害が頻発し、水害の危険性はより一層高まっています。平成24年8月に発生したゲリラ豪雨では、境川の上流域である東郷町付近の大雨により、井ヶ谷町で民家等の浸水被害が発生しました（■1.2.3及び■1.2.4参照）。

### ■1.2.2 過去の主要な洪水による浸水実績

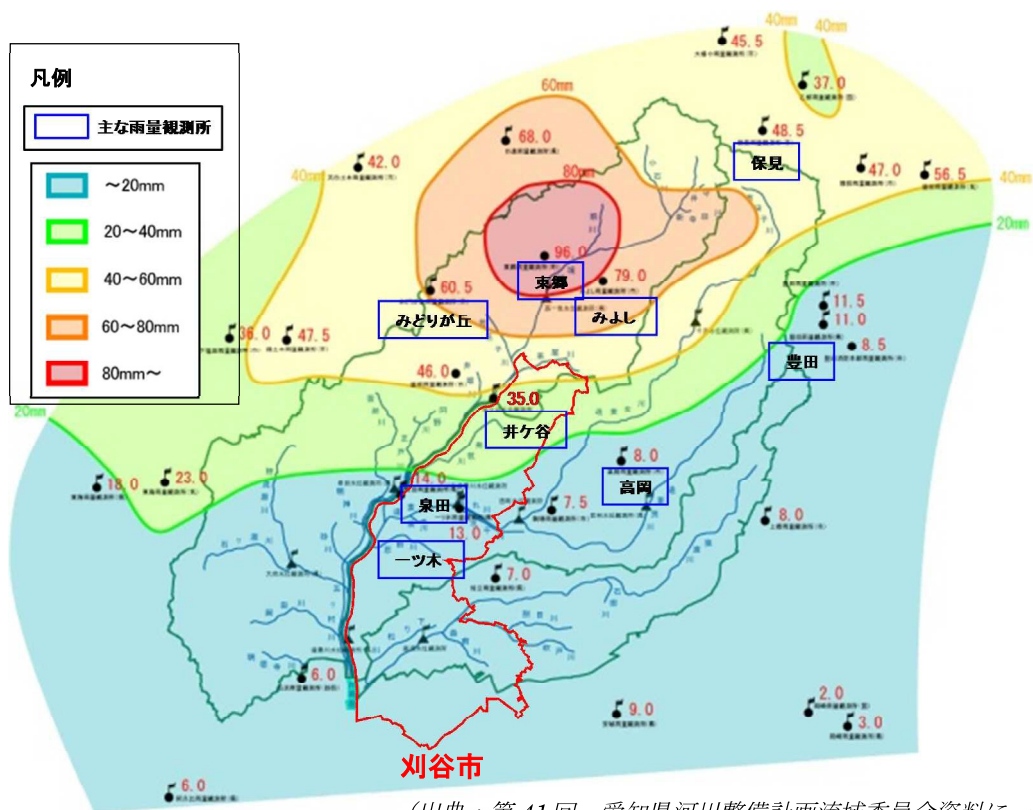


#### <用語説明>

10) ゲリラ豪雨：時間雨量が50mmを超えるような豪雨が、局地的に短時間で降る現象。集中豪雨の一形態。予測が難しく、ゲリラ的に襲うためこの名が付けられた。

## 第2章 主な浸水被害

### ■1.2.3 平成24年8月11日における等雨量線図（60分最大）



### ■1.2.4 平成24年8月11日における浸水実績

